

その12 長尾

(平成6年11月1日号—第172号)

生駒山系の緑を背景に枚方市東部に位置する長尾。昔は、交野[かたの]から長尾にかけての帯を、交野ヶ原と呼んでいました。ハギやススキが咲き乱れ、散在する池にはカモなどの水鳥が羽を休める静かな地であったと伝えられています。

さて、長尾という名称はどこから来たのでしょうか。この地を長尾と命名したのは、江戸時代の領主久貝[くがい]氏だと伝えられています^{*1}。命名の理由は、河内の北の果ての尾のようなどころだからだとされていますが、確実な文献は残っていません。

現在の長尾は、住宅開発などで都市化が進み、JR片町線の快速が長尾、京橋間を25分で結ぶようになり、今後もさらに開発が進むと思われます。

その片町線の長尾駅の傍らには、久貝氏が菩提寺として

建立した正俊寺[しょうしゅんじ]があります。正俊寺は、深い木立に囲まれた本堂、鎌倉期の十三重石塔^{*2}、枯山水の庭園など、遠い歴史を感じさせ、交野ヶ原の静寂な秋を今なおとどめています。皆さんも、一度正俊寺を訪れてみてはいかがでしょうか。



19 正俊寺(長尾宮前2丁目)



20 石造十三重塔

^{*1} 江戸時代以前から長尾の地名は確認できる。久貝氏が長尾を開発した際、福岡村と名付けたが、貞享3年(1686)長尾村に戻した。

^{*2} 大阪府指定有形文化財。